

【算数】 内容および観点別の分析

観点	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
課題	・粘り強く取り組むことや日常生活と関連付けて考えることにやや課題がある。	・根拠を明らかにし、筋道を立てて体系的に考えることが概ねできている。	・四則計算の定着(四則混合計算)にやや課題がある。	・数直線の読み取りや数の合成が概ねできている。
考察	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的内容の定着状況に個人差がある。 ・学習したことを日常生活に活用する力が十分でない。 ・問題解決方法を表現する(記述・口頭)力が不十分である。 		
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的内容の定着状況に個人差がある。 ・問題解決方法を表現する(記述・発表)力が十分ではない。 ・解決のよりよい方法を見付けようという意欲が低い。 ・四則計算の定着にやや課題がある。 		
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をとらえ、解決できるまで筋道を立てて考える力が伸びている。 ・既習事項を利用して、自分の力で解決しようする意欲が伸びているが、依然としてやや課題が見られる。 ・作図や四則混合計算が苦手な面がある。 ・学習内容の理解と定着に個人差がある。 		
改善策	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の算数の学習の時間に、前時の内容の5分間程度の復習タイムを取り、既習事項の定着を図る。また、計算領域は日常的に家庭学習としても取り組み、習熟を図る。 ・文章の意味を読み取り、学習課題を把握し、自分なりに解決の見通しをもつ力を高める。 ・具体物や半具体物を活用した活動を通して、数量についてのイメージ化を図る。 ・「どうしてそうなるのか」という問いを大切にして指導を行う。自分の考えを言葉や式、簡単な図などを用いて表現する活動を意図的に取り入れる。 ・自分の考えをわかりやすく話したり、自分の考えとの相違点や共通点を考えながら友だちの考えを聞いたりする場面を意図的に設ける。 ・発展問題の学習では児童の理解度に応じて取り上げ、わかる喜びや問題を解く面白さを味わわせる。 ・「東京ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、計算力の向上を図る。 		
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を把握し、自分なりに解決の見通しを持つ活動を多く取り入れる。 ・算数的な活動を通して、数量についてのイメージ化を図る(日常的なものと比較するなど)。 ・自分の考えを言葉や式、図などを用いて表現する活動を多く取り入れる。 ・具体物や半具体物を必要に応じて取り入れることで、より理解しやすくする。 ・自分の考えをわかりやすく話したり、自分の考えとの相違点や共通点を考えながら友だちの考えを聞いたりする場面を意図的に設ける。 ・習熟度別指導では、理解度に応じて発展問題も取り上げ、わかる喜びを味わわせる。 ・ドリルなどにより家庭学習の充実を図る。 ・「東京ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、計算力の向上を図る。 		
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るために、家庭学習に日々取り組むようにさせる。 ・グループ活動を取り入れ、問題を解決する意欲を喚起する。 ・問題解決型学習を取り入れ、既習事項を駆使して自力解決する力を高めるとともに、みんなで考える活動の中で、解決過程の様々な方法を知って、次の学習に生かせるようにする。 ・ドリルを活用し、繰り返しの学習を行い、必要に応じて小テストを実施し定着を図る。 ・少人数指導担当と担任で情報交換し、児童がどのように学習内容を理解しているのかを共通理解し、指導に生かす。 ・「東京ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、計算力の向上を図る。 ・地域未来塾を活用し、長期休業中などに保護者の承諾の元、理解が不十分な児童に対して補習学習を行う。 ・レディネステストの結果を元に、習熟度別クラスを編成し、個に応じたきめ細かい指導を心がける。 		

【 理 科 】 内容および観点別の分析

観点	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
課題	・観察や実験には大変意欲的に取り組んでいる。	・自然事象についての諸々の因果関係を捉え、考えることができている。	・実験の結果を的確に表す力が不十分である。	・概ね良好である。
考察	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚を働かせて観察する取り組みを行っているが、細かく観察することに個人差がある。 ・生き物は好きであるが飼育や栽培などへの取り組みになると個人差が出る。 ・「なぜ」を大切に自ら解決しようとする意欲がやや不十分である。 		
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の専門的な用語を知識として理解力はついてきたが、それらを活用し、解決する力がやや不十分である。 ・多方面から考える視点が身につけてきている。 ・観察や実験について、経験の積み重なりから基本的な技能が身に付いていない児童がいる。 ・事柄や現象は理解しているが、原因の説明はやや苦手である。 ・実験結果から、「なぜそうなったのか」など、さらに探究しようという意欲がやや不十分である。 ・既習事項からの類推など、次の学習へ発展的に考えることはやや苦手とする児童がいる。 		
改善策	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに感覚を働かせる観察に取り組む。 ・学級園などの体験できる環境を整える。 ・「なぜ」を大切に自ら解決できるよう授業展開を工夫する。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を学期末や学年末のまとめで活用し、実験・観察を進める際の技能を高める。 		
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中に予想や結果をまとめる活動を取り入れ、科学的なものの見方や考え方を育成していく。 ・既習事項や今までの経験を想起できるような補助発問を通して、言葉で表現できるようにする。また、予想したことを全員発表させることで、うまく表現できなかった児童も考えられるようにする ・話し合い活動を授業の中に意図的に設定し、意見の交流を行うことで、話し合いの型を身に付けさせたり、自分の意見を深めさせたりする。 ・問題→予想→方法→結果→考察という授業の流れを実施する。話し合い活動も取り入れ、ノートに自分の考えを書き、調べてわかったことをまとめるなどの活動を通し、思考力・表現力を伸ばしていく。 ・家庭と連携を図り、日常的に自然界のものに関心をもったり、自然体験を増やしたりするように働きかける。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を学期末や学年末のまとめで活用し、実験・観察を進める際の技能を高める。 		